〔資　料〕

新設看護学部に入学した学生の入学決定に関する要因
～第Ⅰ期生へのアンケート実施結果からの傾向～

日　吉　恭　則[1)]　篠　原　亮　次[2)]

Factors influencing the students' decision making on enrollment at the newly established nursing department: Tendency found in the questionnaires of the inaugural class

HIYOSHI Yasunori, SHINOHARA Ryoji

抄　録

【背景及び目的】

平成28年、開学時の健康科学大学看護学部（以下本学部とする）の入学定員充足率は68% であった。そこで本学部に入学した学生の入学決定に関する傾向を明らかにすることを目的とした。

【方法】

平成28年に本学部に入学した学生を対象に、アンケート調査を実施した。

【結果】

看護系大学を目指した理由は、先行研究と同様の傾向を示した。本学部に進学した理由では、親の賛成が最上位であった。一方、消極的な入学群と積極的な入学群の比較においては、「地域貢献できる」というキーワードを持った項目で有意差が認められた。受験時の情報収集・行動では、インターネットの活用が示唆された。

【考察】

本学への入学決定に関して、受験生のみならず保護者を含めたより効果的な情報提供を検討する必要がある。また、積極的な入学群では地域貢献を積極的に捉えていることが示唆されたことから、大学の魅力の１つとして重要視する必要がある。

キーワード：看護学生
新設看護学部
入学決定要因

1）健康科学大学　看護学部　看護学科
2）健康科学大学　健康科学部　理学療法学科

Ⅰ．研究の背景

平成28年４月に健康科学大学看護学部は新設の看護学部として、山梨県都留市に開学した。都留市は、２次医療圏である富士・東部医療圏に属する。富士・東部医療圏の人口は約18万人[1)]、人口10万人当たりの看護師数は621.8人[2)]であり、山梨県平均の935人、全国平均の906人[2)]の６割半ほどである。富士・東部医療圏に看護師教育機関は専門学校が１校のみであり、看護師の養成とその確保が長年の課題である。地域に根付き活躍できる看護師育成を目指した看護系大学の新設が富士・東部医療圏には望まれていた。

昨今、18歳人口は減少を続け、10年以内に18歳人口が100万人を割り込む時代となる。また、高等教育機関への進学率も、ここ数年は５割程度で変化はない。平成28年の入学定員充足率が100% 未満の私立大学は、257校あり、私立大学全体に占める未充足校の割合は44.5% にのぼる。しかし看護学部に目を向けると、全国私立大学の看護学部の入学定員充足率は107.67% であり、学部別に限ると入学定員の充足率は100% を超えていた[3)]。そのような状況のなか、開学初年度の入学手続率は５割を満たすことができず、入学定員充足率68% であった。本学部は入学希望者をどのように確保していくかという喫緊の課題に直面した。

先行研究では、総合大学で入試政策に基づき入試改革や入試広報を実施したことの実例報告があるが、看護系大学で実施された同様の学生募集についての取り組みに関する先行研究はみられない。また、なぜその大学に入学したのかという広く一般の大学生を対象にした先行研究は存在するが、看護系大学を対象としたものは数少ない。

そこで本研究では、本学部に入学した学生の看護系大学を志望した理由、本学部に進学した理由や受験の際にどのような情報収集・行動をしていたかを明らかにすることを目的とする。そして、今後の看護系大学への進学を考えている受験生、進学希望者や保護者に対して本学部として、より効果的な情報提供を検討する一助としたい。

Ⅱ．研究方法

１．対象および方法

平成28年度に健康科学大学看護学部に入学した１年生54名を調査対象とした。調査方法は、無記名式の記述式質問紙調査を行い、質問紙の提出により同意を得た。調査期間は平成28年12月の10日間で、54名に質問紙を配布した。回収箱を学内に設置し、調査期間内の講義時間終了後に毎日、調査者が回答済み質問紙は回収した。

２．質問紙の構成

「看護師を目指した理由」に関する項目は学生への予備インタビューと先行研究[5)6)7)]を参考に看護師を目指した志望動機に関する質問項目を16問作成し、各項目「はい」・「いいえ」で回答を求め、一部下位項目として自由回答や複数回答の設問を設定した。

「看護大学を目指した理由」に関する項目も先行研究[5)~11)]を参考に看護系大学への進

学志望動機に関する質問項目を17問作成し、各項目「はい」・「いいえ」で回答を求めた。

「健康科学大学看護学部に進学した理由」に関する項目は学生への予備インタビューで得られた結果と先行研究[7)10)12)13)]を参考に本学部の現状を踏まえた質問項目を18問作成し、「はい」・「いいえ」で回答を求め、一部下位項目として自由回答や複数回答の設問も設定した。

「基本属性等」に関する項目は回答者の年齢、性別などの属性の他に、他学部の受験の有無や、受験情報の収集方法、奨学金の有無等を選択式の回答方法で設問を設定した。質問項目は11問で、複数回答の設問を主に構成し、一部下位項目の設問も設定した。

3．分析方法

看護系大学を目指した理由、健康科学大学看護学部に進学した理由、受験の際にどのような情報収集・行動をしたかについて、単純集計を行った。また、本学部に進学した理由の中で、「他の併願校が落ちて仕方がなく入学した」の項目に、「はい」と回答した者を「消極的な入学群」、「いいえ」と回答した者を「積極的な入学群」と分類した。本学部への入学について、「消極的な入学群」、「積極的な入学群」別に、看護系大学を目指した理由、本学部に進学した理由の各変数に関する χ^2 検定を実施した。

統計処理は記述統計処理と統計的仮説検定を行った。分析には統計解析向けソフトウェア「RStudio」を使用した。RStudio のバージョンは「version 1.0.153」を使用し統計処理を行った。

4．倫理的配慮

学生へのアンケートの際には、研究説明書を用いて研究内容と倫理的配慮について説明した。本研究への参加協力、アンケートへの回答は、なんら強制するものではないこと、研究に参加、不参加にかかわらず、学生生活や成績には一切影響が無いこと、また今後いかなる不利益も受けないことを説明した。また収集したデータは研究以外の目的には利用しないこと、研究結果の発表の際には、個人が特定されないよう配慮することを説明した。

研究協力の意志は、アンケートの提出をもって研究協力の同意を確認するものとすることとした。また研究説明書には連絡先を記載し、いつでも学生からの問い合わせを受けられるように配慮をした。

データの保管方法は鍵の掛かる保管棚で管理し、データファイルは暗証番号を付けて管理した。データは統計的に処理を行い回答者が特定できないようにした。結果の公表については、個人が特定される内容では無いことを確認し、プライバシー保護に留意した。

本研究は健康科学大学の研究倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号第22号）。

Ⅲ．結　果

１．調査票の回収

学生54名に質問紙を配布し33名から回答を得た。回収率は61％、有効回答数33名：100％であった。

２．　属性

対象者の属性は女性27名（82％）、男性６名（18％）であった。年齢は19歳以下が30名（91％）で、３名（９％）は25歳以上であった。また高校の新卒者29名（88％）、既卒者４名（12％）であった。

３．各変数の記述統計

⑴　看護系大学を目指した理由

看護系大学を選んだ理由で、学生が「はい」と回答した割合が多かったものは順に「看護大学の方が専門学校より、落ち着いて勉強できるから」31名（97％）、「看護師免許を取得したいから」31名（94％）、「大学卒として就職した方が、生涯収入が高くなるから」31名（94％）、「看護大学で専門性の高い知識をつけたいから」30名（91％）、「看護大学で幅広い教養を身につけたいから」30名（91％）、「看護大学を卒業したら就職に有利だから」27名（82％）、「看護大学ほうが、助産師、保健師、養護教諭などの資格も取れるから」23名（70％）であった。一方、特に割合が少なかったものは「何となく看護大学を目指した」８名（24％）、「学びたい教授・教員が大学にいるから」７名（21％）、「友人たちが大学に行くから」３名（９％）となった（図Ⅲ－１）。

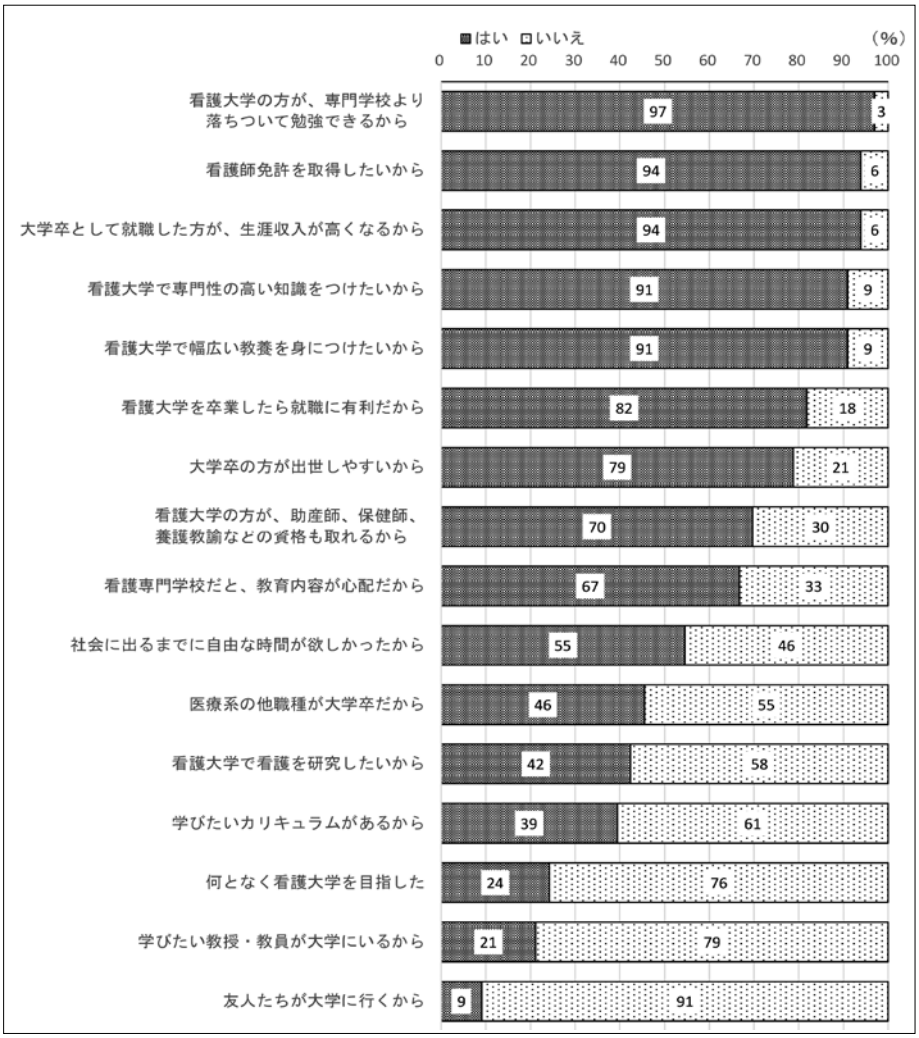
⑵　健康科学大学看護学部に進学した理由

健康科学大学看護学部に進学した理由の項目で、学生が「はい」と回答した割合が多かったものは順に、「親の賛成があったから」27名（82％）、「保健師免許の受験資格が取得できるから」22名（67％）、「新設校だから」18名（55％）であった。一方、特に割合が少なかったものは「健康科学大学看護学部の実習先に就職したいから」４名（12％）、「奨学金がもらいやすかったから」１名（３％）、「友人やあこがれの人と同じ学校に行きたかったから」が０名（０％）であった（図Ⅲ－２）。

その他、本学部に進学した理由に「奨学金がもらいやすかったから」と答えたのは１名（３％）であったが、実際に奨学金をもらっている学生は19名（58％）であった。

⑶　受験時の行動について

本学部を受験した際の入学試験方式は 一般入試が19名（58％）、公募推薦入試が12名（36％）、AO 入試が２名（６％）であり、本学部以外を受験したと回答したのは21名（64％）で３名（９％）は無回答であった。

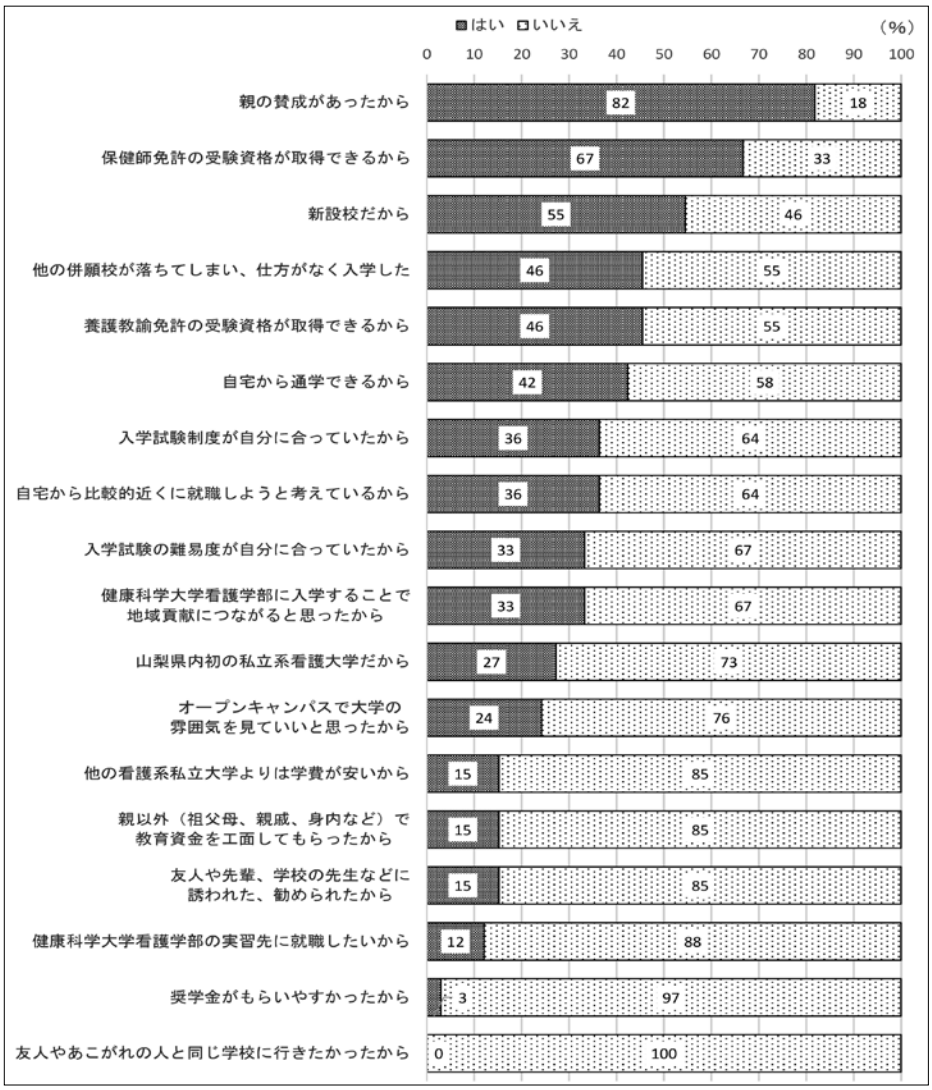


図Ⅲ－1. 看護系大学を目指した理由

受験に関する情報をどこから収集したかの複数回答では、「志望校のホームページ」20名（61%）、「志望校のパンフレット」13名（39%）、「志望校の学校説明会」12名（36%）、「志望校のオープンキャンパス」と「受験情報誌」が共に7名（21%）と続いた（図Ⅲ－3）。

受験に関する情報収集でよく使った媒体についての複数回答では、「パソコン上でのインターネット」28名（85%）、「スマートフォンアプリ」14名（42%）、「進学情報誌」、「学校案内」がそれぞれ13名（39%）と続いた。（図Ⅲ－4）

健康科学大学の広告や広報活動で印象に残っている媒体についての複数回答では、「SNS上での広告」と「新聞広告」がそれぞれ5名（15%）、「各種情報誌」4名（12%）となった（図Ⅲ－5）。



図Ⅲ－2.　健康科学大学看護学部に進学した理由

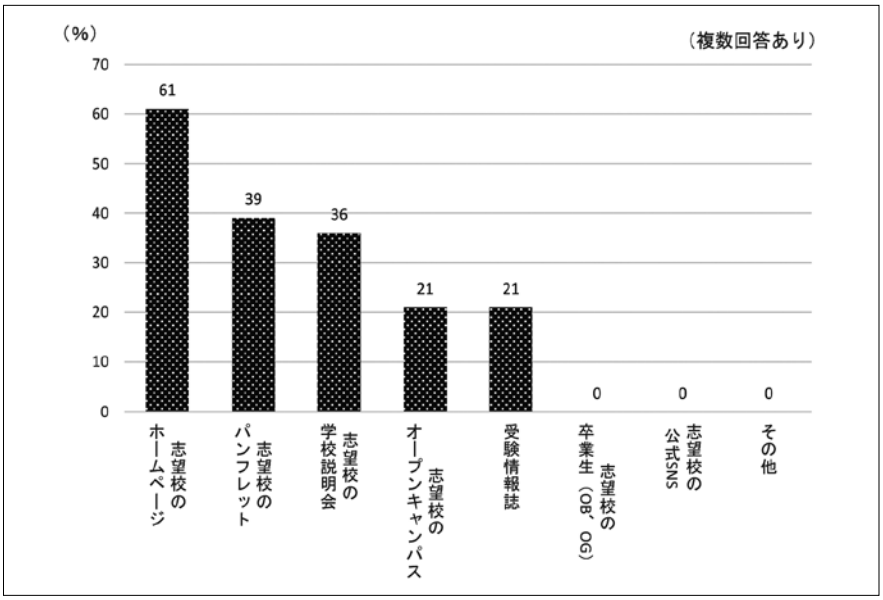
4．消極的な入学群・積極的な入学群と各項目の関連に関する χ^2 検定

「看護大学を目指した理由」の各項目と消極的な入学群・積極的な入学群別の χ^2 検定では、有意な項目差はみられなかった。一方、「健康科学大学看護学部に進学した理由」の各項目に関しては、「入学試験制度が自分に合っていたから」（$\chi^2=4.95$, df＝1, p＝0.026）、「健康科学大学看護学部に入学することで地域貢献につながると思ったから」（$\chi^2=8.8$, df＝1, p＝0.003）で有意差がみられた（表Ⅲ－１）。

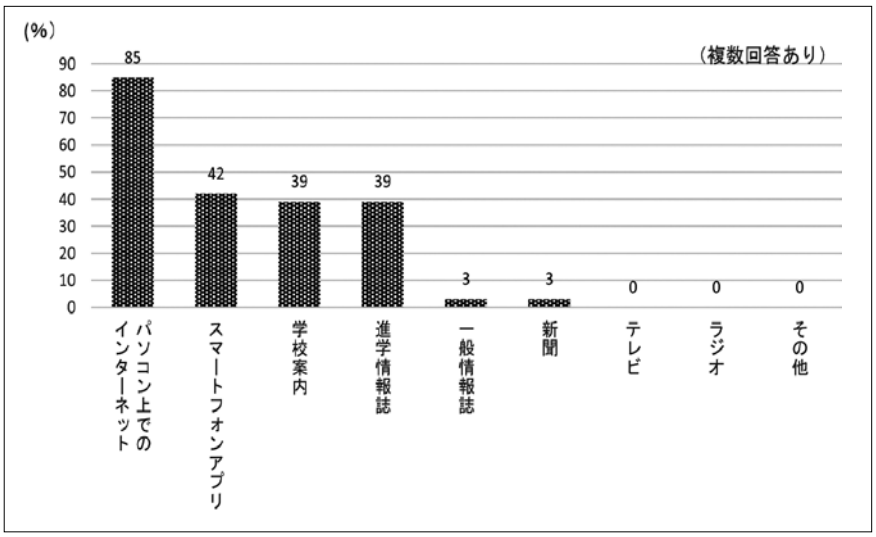
表Ⅲ－1.　「消極的な入学群」「積極的な入学群」と有意な差がみられた項目のχ^2検定の結果

n＝33(人)(　)内は%

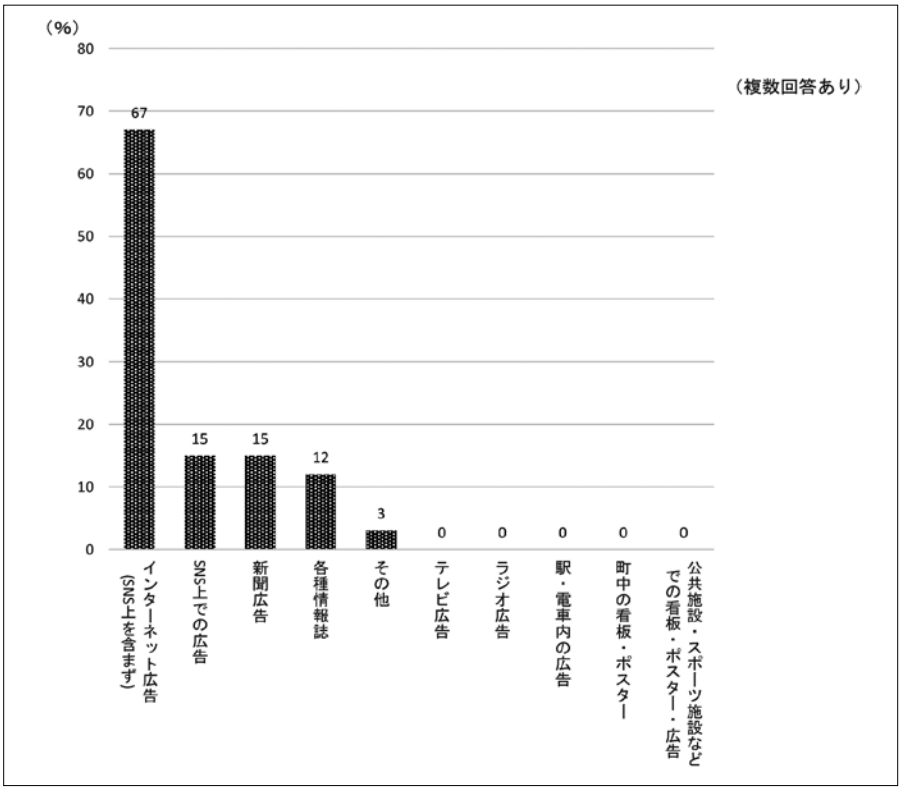
項　　目		消極的な入学群	積極的な入学群	χ^2値	p値
入学試験の難易度が自分に合っていたから	いいえ	13(59)	9(41)	4.95	0.026
	はい	2(18)	9(82)		
健康科学大学看護学部に入学することで地域貢献につながると思ったから	いいえ	14(64)	8(36)	8.8	0.003
	はい	1(9)	10(91)		



図Ⅲ－3.　受験に関する情報をどこから収集したか



図Ⅲ－4.　受験に関する情報収集で良く使った媒体



図Ⅲ－5.　健康科学大学の広告や広報活動で印象に残っている媒体

Ⅳ. 考　察

本研究は、健康科学大学看護学部に入学した学生の看護系大学を志望した理由、健康科学大学看護学部に進学した理由や受験の際にどのような情報収集・行動をしていたのかの実態を把握するため、「看護系大学を目指した理由」と「健康科学大学看護学部に進学した理由」、「受験時の情報収集・行動について」に焦点をあて検討した。

看護系大学を目指した理由については、看護師免許の取得以外に大学または専門学校へ進学するかを考慮した学習環境の要因、また大学卒であることによる収入面や今後のキャリアデザインを考慮した要因が多かった。これらは竹本[7]の先行研究の結果と大枠では同様の傾向を示している。

本学部に進学した理由については、親の賛成が最上位、それ以外は６割以下となり、学生本人の意向に留まらない理由がうかがえる。学生本人に直接情報を届けるだけでなく、保護者への情報提供や大学としてどのように積極的な関わりをしていくかを検討する必要がある。一方、消極的な入学群と積極的な入学群の比較おいては、地域貢献できるというキーワードを持った項目で有意差がみとめられ入学決定の重要な要因である可能性がある。本学部に入学することが地域貢献となるということを、どのように受験生

に対してアピールしていくべきかを、大学として考察していく必要がある。

また、受験時の情報収集・行動については、情報収集の多くにインターネットを活用している可能性があり、大学ホームページのコンテンツの充実などの重要性が推察された。

本研究結果が、今後の看護系大学への進学を考えている受験生、進学希望者や保護者に対し、本学部としてより効果的な情報提供を検討する一助となることを期待する。

1．看護系大学を目指した理由

⑴ 学習環境の要因

学生の多くは、看護師免許を取得するためという理由に加えて、大学または専門学校へ進学するかを考慮していた。「看護大学の方が専門学校より、落ち着いて勉強できるから」、「看護大学の方が、助産師、保健師、養護教諭などの資格も取れるから」、「専門学校だと、教育内容が心配だから」など大学での学習環境を考慮している学生が多いこと、大学と専門学校との学習環境を比較していることから、大学教育と専門学校の教育環境を重要視している可能性がある。

また学生は、「看護大学で専門性の高い知識をつけたいから」、「看護大学で幅広い教養を身につけたいから」という意識があり、学生の学びに対するニードは高い可能性がある。一方、割合は4割以下となっている項目として「看護系大学で看護を研究したいから」、「学びたいカリキュラムがあるから」、「学びたい教授・教員が大学にいるから」との項目もあり、大学の特徴と言える研究活動が何であるか、具体的に看護系大学の特徴や特色が十分に理解されていない可能性がある。

同じ富士・東部地域にある看護師養成校で、8年連続して看護師国家試験の合格率が100%を達成している専門学校があり、専門学校として一定の価値を提供し続けている。看護師免許を取る、看護師国家試験の受験資格を得ることを目的とした進学先選択のなかで、なぜ、看護専門学校でなく、看護系大学で学ぶべきかという価値を明確に示していく必要がある。企業戦略論を説く楠木建教授が「戦略の本質は競合他社との違いをつくることである」[16]と述べている通り、本学でも他校との違いを打ち出す長期的なビジョンが必要と考える。

⑵ 大学卒業後の収入やキャリアデザインの要因

学生の多くは、「大学卒として就職した方が、生涯収入が高くなるから」、「看護大学を卒業したら就職に有利だから」、「大学卒の方が出世しやすいから」、また少数意見であるが、「大学院に行くという選択肢がある、学士が取れるから」という記述もあった。大学卒であることが収入面や今後のキャリアデザインとしても重要であると考えていると推測される。また6割程度ではあるが、看護師を目指した理由について「看護師の職場は、性別に関わらず出世できると思ったから」としており、キャリアに関心があることが分かる。今後、本大学としては、新卒看護師を育てることだけでなく、看護師のキャ

リア育成、医療職としてのキャリアデザインをサポートする方策が必要である。札幌市立大学看護学部[17]のように附属の病院を持たない大学が、市中病院と連携して継続的な卒業生支援を行うなど、教育と臨床がキャリアデザインのサポート促進に関する差別化を図る連携が構築できれば、本大学の売りにつながる可能性がある。

2．健康科学大学看護学部に進学した理由

⑴　なぜ、健康科学大学看護学部に進学したか

健康科学大学看護学部に進学した理由の最上位は「親の賛成があったから」である。これは、今回の回答者の属性から19歳以下の学生が91% であり、経済的に親の庇護のもとで生活していることが想像され、決定要因としては影響が大きいことに疑いはない。これ以外の項目では、本学部に進学した理由として６割以上であったのは「保健師免許の受験資格が取得できるから」のみであり、本学部の売りとして、他校と差別化を示すことができる本学部の特徴を受験生へ十分に提示できていない可能性がある。

本学部は地域密着型の看護系大学を目指しているが、「自宅から比較的近くに就職しようと考えているから」、「健康科学大学看護学部に入学することで、地域貢献につながると思ったから」が３割、「健康科学大学看護学部の実習先に就職したいから」が１割と割合が低いことから、全体的に学生自身は、地域との関わりをまだ考えらない時期であることが推測される。これについては、実習やイベントを通じた地域との関わりや、この地域の現状や本学部の設立の趣旨を繰り返し学生に伝えていき、この地域で活躍していく学生の芽を育てていく必要があると考える。これは本学部の使命でもあり、長期的には本学部の卒業生がこの地域の医療・福祉を支えているという価値を目指した活動が必要である。

また２割程度の学生が「オープンキャンパスで大学の雰囲気を見ていいと思ったから」をあげているが、Ⅰ期生の受験当時は、看護学部は開学前であり都留市の看護学部キャンパスは工事中で、実際には河口湖キャンパスでの対応であった。平成28年度以降は都留キャンパスでオープンキャンパスを行い、生徒や保護者を迎えており、Ⅰ期生の入学前とは対応が異なっているため、この結果は参考として今後に生かすこととなる。

⑵　消極的な入学群と積極的な入学群との比較

「看護系大学を目指した理由」については、どの項目においても「消極的な入学群」と「積極的な入学群」の間に有意差が認められなかった。それは、両者とも大学進学は望んでいることが基本にあり、学ぶ場所の違いだけの問題で、根本的には大学で学ぶという方向性は同じであったため、有意差が認められなかった可能性が考えられる。

「健康科学大学看護学部に進学した理由」について、「消極的な入学群」と「積極的な入学群」の比較では、「入学試験制度が自分に合っていたから」の項目で有意差が認められた。積極的な入学群はより積極的に入学試験制度を検討している可能性がある。また、有意差が認められた「健康科学大学看護学部に入学することで地域貢献につながる

と思ったから」という項目は、この地域で活躍する看護師の芽を育てていくという、本学部の使命と合致している。積極的な入学群は地域というキーワードを意識しており、本学部の入学者確保に対する重要な要因の１つである。

３．受験時の情報収集・行動について

入学した学生が、どのようにして受験に関する情報を得ていたかをみると、インターネット経由が８割以上であることが明らかになった。パソコンやスマートフォンでの情報収集とパンフレットや情報紙の紙媒体では、紙媒体のほうが少なかった。また健康科学大学の広告等で印象に残っていると答えた学生は７割に満たない。実際、本大学では健康科学大学のホームページ、YouTube、Facebook や Twitter などを積極的に利用し受験に関する情報などもを配信しているが、受験者にどれだけ届いているのかを今後検証する必要がある。インターネットのさらなる活用とその方法に関する検討が必要である。

４．入学要因について

意思決定の「要因」に着目したモデルとしてアンドリーセンの「BCOS」モデルがある[18]。BCOS モデルでは、個人の意思決定は、内部要因と外部要因の複雑な組み合わせに起因するものとし、① 利得・効果（Benefits)、② コスト（Costs)、③ 他者要因（Others)、④自己有効性（Self-Efficacy）の４ つを主要な要因としている。本学部への入学決定要因として BCOS モデルに当てはめると、①看護師国家試験受験資格、大学卒の学歴などのベネフィット。②学費、通学、下宿、奨学金などのコスト。③保護者、進路指導の教員等身近な者の意見。④この大学に入学して看護師国家資格を取得するという自己確信、となると考えられる。

①については看護系大学を目指した時点で満たされると考えるが本学では保健師コースがあり、保健師国家試験受験資格、養護教諭申請資格等の取得が、選抜される学生ではあるが可能であることが要因として加味されるだろう。②については、図Ⅲ－２で「他の私立大学より学費が安いから」と答えた学生は５名（15%）であり、首都圏や大都市圏での学ぶ場合とのトータルコストを算出し、地元で学ぶ方が通学、下宿等のランニングコストを含め、総合的にみて安価であることをアピールする必要がある。③については、本学部に進学した理由の項目では、親の賛成が最上位であり、荒川ら[19]は、生徒への影響が大きいのは母親や担任であると述べている。保護者に看護師における大学教育の必要性を伝えるだけでなく、看護師になることを否定的に両親がとらえる場合もあるとも荒川ら[19]は述べており、看護師になるということ自体を後押しするような、保護者への情報提供など、大学としてどのように保護者に対して積極的な関わりをしていくかを検討する必要がある。④については学習環境の要因を主として大学または専門学校へ進学するかを考慮したことが推測される。また西浦らの研究から、学生の声が非常に重要になる[10]と述べられており、本学部に在籍している学生の看護師国家資格を取れそう

だという声や、学んだことが、演習や実習などに活かせたという自己効力感が持てるような、サポートを行うことが本学部としての強みになっていくことが予想され、それらの情報が学生の言葉として語られると、より受験生や高校生の進路の決定要因として影響していくことが推測される。

Ⅴ．研究の限界と可能性

本研究では、健康科学大学看護学部看護学科のⅠ期生を対象に行ったが、質問紙の回収率が６割、有効回答者数は33名という中で、結果の集計と考察をしており、結果の割合が大きくなっている可能性がある。また本研究は定量調査であり、入学要因の傾向のみの検討となっている。さらに入学要因について考察を深めるためには、インタビューなどの定性調査を行い、個々の学生の傾向を明らかにできれば、本学としてのどのような学生支援を行う必要があるかが明らかになる可能性がある。

本研究の母集団は本大学看護学部の入学学生であり、一般化には限界がある。加えて本学部に入学した学生を対象としているため、健康科学大学看護学部を選ばなかった理由については、触れることができていない。今後、健康科学大学看護学部を受験した受験生を対象に健康科学大学看護学部を選ばなかった理由や第一志望でない理由を確認することで、新たな課題を明らかにできる可能性がある。

謝　辞

本研究を行うにあたり、健康科学大学看護学部看護学科の平成28年度の新入生の皆さんに調査協力をお願いし、引き受けていただきました。ご協力いただいた学生の皆さんへ心から感謝の気持ちと御礼を申し上げます。

参考文献・参考 URL

1）「平成25年度　国勢調査」、都道府県・市区町村別統計表（一覧表）
http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL02020101.do?method=extendTclass&refTarget=toukeihyo&listFormat=hierarchy&statCode=00200521&tstatCode=000001049104&tclass1=&tclass2=&tclass3=&tclass4=&tclass5=　（平成29年10月30日）

2）山梨県「山梨県看護職員就業状況　平成29年度」
http://www.pref.yamanashi.jp/imuka/documents/h29_syuugyou.pdf　（最終アクセス：平成29年10月23日）

3）文部科学省「高等学校の将来構想に関する基礎データ」平成29年４月11日版
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/gijiroku/__icsFiles/afieldfile/2017/04/13/1384455_02_1.pdf　（最終アクセス：平成29年10月23日）

4）日本私立学校振興・共済事業団 「平成28（2016）年度　私立大学・短期大学等入学志願動向」
http://www.shigaku.go.jp/files/shigandoukouH28.pdf　（最終アクセス：平成29年10月23日）

5）望月初音，関千代子，冨田幸江，仙田志津代，北原佳代，佐々木美樹（2005)「学生の看護への志望動機とめざす看護師像」つくば国際短期大学紀要33, pp. 105-119

6）鈴木美代子，井上都之，高橋有里，三浦奈都子，及川正広，平野昭彦，菊池和子（2012)「看護学生の看護のイメージと個人要因との関連について」岩手県立大学看護学部紀要14，pp. 33-48

7）竹本由香里（2008)「看護学生の看護系大学への進学志望動機の検討」宮城大学看護学部紀要　第11巻第１号　pp. 13-20

8）安藤由則（2009)「女子大学」に関する意見の因子分析―女子学生への調査と他大学調査との比較―武庫川女子教育研究所　研究レポート　第39号　pp. 1 -29

9）西山智春，大室律子，鈴木良子，合田典子，細越幸子（2004)「看護学生の高等学校教育における進路決定に関する要因」看護教育　Vol. 45 No. 8　pp. 717-721

10）西浦明倫，川口潔，宮下明大，宮下明（2015)「大志望度及び入学決定要因に基づく入試広報施策の展開」大学行政研究大学行政研究10，pp. 33-49

11）服部典子（2013)「進路決定過程における学生の意識と行動―キャリアアドバイザーの役割と機能の考察―」法政大学キャリアデザイン学部紀要　pp. 233-250

12）高柳良太，陣内靖彦（2003)「看護学校進学者の学校選択と看護教育への期待―首都圏13校の入学者調査より―」日本教育社会学会大会発表要旨集録　pp. 60-61

13）一柳陽子，谷山，山崎千寿子，武内和子，小潰優子：看護学生の入学・職業選択動機の実態と構造，川崎市立看護短期大学紀要，14(1)，21-27（2009-03）

14）進研アド：なぜ，その大学に入学したのか，Between 2014年 2-3 月号 p. 20-25

15）山本江里子（2015)「看護短大における就職支援について考える」神奈川歯科大学短期大学部紀要２，pp. 85-89

16）楠木健（2010)『ストーリーとしての競争戦略―優れた戦略の条件』東洋経済新報社

17）田中広美他（2014)「特別記事 大学が主催する新人看護職員の『社会化』支援③【最終回】札幌市立大学看護学部による卒業前スキルアップトレーニング」p. 260-269　看護管理

18）フィリップ・コトラー，アラン・R. アンドリューセン（2005)「非営利組織のマーケティング戦略［第６版］」第一法規株式会社

19）荒川靖子・小野ツルコ・小原ルリ子他（1991)「短大看護学科への進路決定に影響する要因の研究」岡山大学医療技術短期大学部紀要　p. 97-104

Abstract

Purpose：In 2016, the proportion of enrollees in the Faculty of Nursing, Health Science University, at the time of opening was 68% of the admission quota. The aim of the study was to clarify students' reasons for enrolling in our department.

Methods：A questionnaire survey was conducted among students enrolled in our department in 2016.

Results：Students' reasons for enrolling in a nursing college showed the same tendency as in previous studies: The most frequent reason that was to gain parents' favor, and less than 60% in other cases. On the other hand, when comparing passive entrance and active entrance groups, a significant difference was found in the item "to contribute to the community." Regarding information collection about taking the examination, students suggested utilizing the Internet.

Discussion：For students' admission decisions to our university, it seems necessary to consider more effective information provision that includes parents as well as students. In addition, the results suggested that the active entrance group positively captures regional contributions, so it is necessary to emphasize this as one of the attractions of our university.

Key words : nursing student
new faculty of nursing
entrance to school determinant